

奈良・橘寺

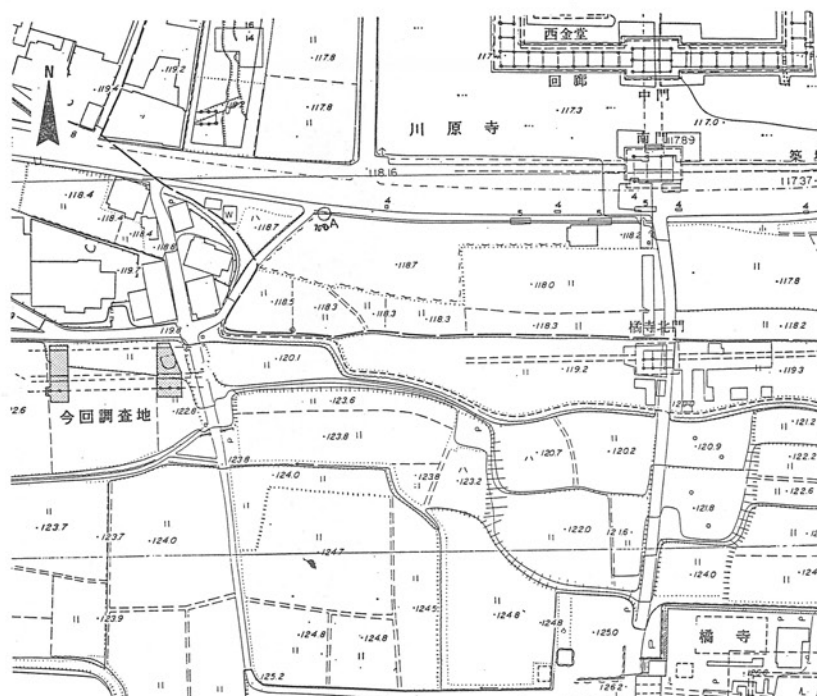
- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村橘
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)九月～十二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 岡田英男
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 七世紀～一五世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(吉野山)

本調査地は橘寺の北西約一七〇mの地点で、橘寺とその北に位置する川原寺との旧境界と考えられる里道の南側である。調査区は東西二カ所に分れ、面積は一六〇㎡である。遺構は大別してⅠ期(七世紀後半)・Ⅱ期(八世紀中頃)・Ⅲ期(中世)に区分できる。

Ⅰ期は掘立柱東西塀SA〇一とその北雨落溝SD〇二で、SA〇一は東区で二間分、西区で一間分を確認



橘寺調査位置図(1:2000)

し、一五間分が復原できる。SD〇二は塀心から三m北にある素掘り溝である。Ⅱ期は土塀SK〇五がある。東西四・五m、南北三・

五m、深さ一・五mで、造営工事の廃材や塵芥を投棄したゴミ捨て穴と推定される。この土壇やⅡ期整地層から出土した瓦は川原寺創建瓦を含む七世紀後半のもの、土器は藤原宮期から奈良時代中頃のものである。土壇中から木簡が九点出土した。Ⅲ期はSA〇一から五m北に設けられた築地塀SA〇三とその北雨落溝SD〇四、土壇SK一〇等である。SA〇三は基底部幅三m、残存高約〇・五mで、築地本体は削平されていた。SD〇四は築地の北二mにあり、深さ一・二m、復原幅二mで、鎌倉時代～室町時代初期の土器・瓦が大量に出土した。この築地は以前に確認している橘寺北限の築地塀の西延長部で、今回北門心から一五四m分確認したことになり、西限はさらに西に延びる。築地基底部出土の遺物からみて、前身の築地があったとしても八世紀中頃以前にはさかのぼりえない。それ以前は南の東西塀が北限施設であった可能性が生じてくる。これらの塀や築地は川原寺の伽藍方位に一致し、遺物の上でも同寺と共通するものが多いから、古代においては橘寺の北限域は、川原寺の強い影響下にあったらしい。

8 木簡の积文・内容

(1) ・ \nwarrow 川郡 $\square\square\square\square\square\square\square$ 郷 $\square\square\square\square\square\square\square$ 」

・ \nwarrow $\square\square$ 十 $\square\square$ 」

158×21×3 032

(2) ×魚煮一連上」

(92)×15×2 059

(3) \nwarrow 煮凝」

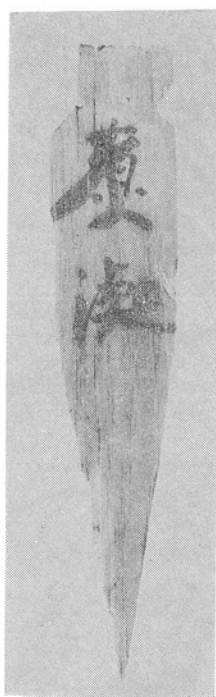
114×23×2 033

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)』(一九八七年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報一七』(一九八七年)

(加藤 優)



木簡 (3)